慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	箕作元八氏著 西洋史講話
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.4 (1910. 10) ,p.496(128)- 498(130)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著批評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19101000-0128

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

高等裁判所の終審に附せらる。最後に控訴院は直接に第一審として官吏職務行使の際に犯せる犯罪を審理す。

第三節　元老院（第三審）

司法部は元老院第二部を構成せる議官を以て之を組織す。すべて任期三年にして勅選せらる。部長は二萬五千馬議官は二萬馬の俸給を受く。元老院檢察官、檢事の職務を行ふ。

法廷は之を二部に分つを得可し、議官五人を以て審理す。但しその全員の同意ある時は四人にて可なり。第二審裁判所卽ち控訴院の判決に對する上告を受理して終審の裁判を行ふ。

（G. Demombynes: Les constitutions européennes 並に N. C. Frederiksen: Finland に據る。）

新著批評

文學博士箕作元八氏著

西洋史講話

從來邦文の西洋史の公にされしもの少からざりしが、今回開成館より發行されたる、箕作教授の「西洋史講話」（定價金五圓）は實にこれらの羣籍のうちにありて一頭地を抜けり。その古波斯國以往の歷史を叙するに、本文千三百頁のうち、僅かに三十二頁卽ち約四十分の一の頁を充てたるは聊か物足らぬ思なきにあらねど、それ却て著者の用意の周到なるを示すものにして、上古史よりは中古史を中古史よりは近古史を近古史よりは最近史を詳述し、實に一八一五年以來の最近史に殆んど全書の一半を充て。殊に一八七一年以後の現世史に就て細叙しあり。故にこの書を繙くものは世界の現狀を了解するに於て毫も遺憾なかる可し。西洋史の全局面を分て、西洋文明發生時代、東西衝突時代、東西文化融合時代、西歐混亂時代、政教大統一理想時代、國家主義發生時代、西佛對抗時代、西國强勢時代、佛國强大時代、權力平衡主義流行時代、大革命時代、新舊兩主義衝突時代、自由統一主義實現時代、世界政局革新時代の十四期となせるが、その時代の命名能く要領を得、之を通讀するのみにて既に、人をして世界史大勢推移の情態を眼前に髣髴せしめずんばあらず。蓋し、著者の學識を以てして、八年の星霜を積みて幾度か稿を更めたるものなれば、尋常書物製造家の作物とその選を異にするものあるは固より言を俟たざる所にして、著者も序文に於て「これ實に數年に亙れる眞面目の努力の結果にして、余の專問研究の未だ世に公にせざるものゝ一部をも含めるものなれば、本書に對する責任は余の敢て辭する所にあらざるなり」と云へり。本書に對して襟を正しうせしむるものは實に著者のこの精神なり。

著者は又史實の聯絡と時代の精神とを闡明するに力を用ゐ、處々に史論を挾めるが、現今の思潮を評しては卽ち曰く

自分はその渦中にありながらこれを判別することは頗る困難であるが、著者は假にこれを搜索時代と名けるのである、今各文明國民の神經過敏の程度はます〳〵昂進し、諸種の思潮が錯雜混亂して、その間に調和が得られない、人心は概して從來有つた所の主義學說慣例の何れにも十分滿足しないで、新に何者をか得ようとして闇中に搜索しつゝあるが、さりとて政治科學藝術何れの方面にも一世を風靡す可き卓說や天下の師表となる可き偉人が顯れないで、衆論紛々、群雄割據が今の大勢である。但し或方面には前期の現實主義に對する反動として、所謂新理想主義が勃興しつゝあることは確かに認められるのである、かやうに現代の人は迷惑煩悶しつゝあるが要するにこれは社會が最後に大いに覺醒進步するの準備時期ではあるまいかと著者は思ふものである

と。これ現代人の反覆玩味す可きの評論たり。著者は又クロムウエルの人物に就て兎角の評論あることを述べて扨て曰く、

この人は決して英雄人を欺く底の僞信者ではなく、純潔熱誠なピューリタンであつて、その信ずる所に從つて、宗教の爲に政治の爲に盡瘁した人であると斷言するに躊躇せぬのである。卽ちクロンウエルはその奉ずる主義に殉ずる大覺悟で邁進する眞情徑行の人であつたので、經綸する四圍の情實の爲に、騎虎

の勢で遂に甚しい武斷を施したものである

と、實に人の肺腑に入り得可き同情ある論斷なり

挿畫と云ひ、挿圖と云ひ、系圖と云ひ、索引と云ひ、一として本書の價値を高め便利を增さざるはなく、行文もすべて言文一致體を用ゐありて極めて通讀に適せり。余は邦文の西洋史として進んで讀者にレコムメンドし得可き好著述を得たるを喜ぶものなり。用紙裝釘又佳、但し卷帙厖然たれば寧ろ之を二冊となすを以て便利なりとするの讀者もあらん。余はこの種の著述に於て數ば固有名詞の讀方の杜撰なるを發見するの常なるが、本書はこの點に於て殆ど欠點なし。尤も鎖細の事實に於ては訂正を要するものなきにあらず、一〇三二頁に千九百年の英國總選擧後のことを叙して「ソールスベリーは外務大臣の任をバルフオアに讓り」云々あれどバルフオアのランズダウンの誤なることと云ふ迄もなし。又一〇八六頁より八七頁に渉りて、那威獨立のことを叙し、一九〇六年に端典は那威の獨立を承認せるが如く記すれどては五年の誤にして、而して又「那威は丁抹王フレデリキ八世の第二子カロロを迎へて王とした」とあれど、フレデリキ八世の父王クリスチアン九世崩後卽位せるは一九〇六年一月二十九日のことなれば正確に云へば、今の丁抹王フレデリキ八世の第二子云々と記さゞる可からず。鎖末のことなれど思ひ寄れる儘附記す。

（田中萃一郎）

三田學會記事

理財學會例會

十月八日理財學會第五十一回例會を圖書館樓上大廣間に於て開く、出席者氣賀堀切兩教授外四十餘名、午後七時より講演を開始す。法學博士小林丑三郎氏幹事の紹介を以て壇上に立たれ金融上の疑問に就てと題して大要左の如き講演を試みより。

金融緩漫を告ぐること久し〳〵金利低落したれどもこの低落の趨勢は果して永久的にして歐米先進國と同一の方向に向ひたるものとして我が金融界の革新と見るべきや否や、若し然りとすれば事業興らざるべからざる筈なるにその實際に然らざるは何故なるか。抑々一國の金利の低落が永久的なるがためには金融の基礎確立せざるべからず、我金融の基礎果して確立せりや。金融

的と動的とあり、保險會社の積立金郵便貯金等長期事業に放下せらるゝものは前者に屬し各銀行に於て割引荷爲替等短期事業に放資せらるゝものは後者に屬す、我國郵便貯金高は戰後一億三四千萬圓に達したれども諸外國のそれと比較するときは殆ど言ふに足らず保險會社の積立金とても同樣にして必要ある場合には短期浮動資金を補ふべき長期資金は却て短期資金に助けらるゝの實狀なり我國の金融は兌換券に依賴すること多くして金融の中心點は中央銀行にあれども歐米諸國に於ては國民の貯蓄多く零碎なる資金先づ下級銀行に集り之を以て事業を營むを以て金融の中心點は下級銀行にあり、パニツク起るも忽ち平穩に歸し緩に過ぎず急に過ることなく常に低利を保てるは國際間相通ずるにも依るべしと雖も固定長期の貯蓄の多きこそ其の根本にはあらざるか。然らば固定貯蓄少き我國に於て目下金利の低落せるは何に原因するか曰く、（一）外債募集の結果非永久的なる資金が用途なくして或部分に停滯し（二）貿易上の輸入超過少く從て外國への支拂額多からざる上に外資の輸入あり（三）加ふるに內國債の償還ありて金融市場に貨幣の供給過多となりたるによる。かゝ金利低落せるにも係らず事業起らざるは何故なるか、內國に停滯せる資金は外國より借り入れたるものゝ殘金なるを以て海外に於ける金融市場の景況によりては何時償還さるゝやも計り難く之を長期の貸付に放下するは最も危險なるのみならず剩へ大會社の破綻あるを以て之を銀行より見れば政府公債の取扱大藏省劵の貸附借更を營み一割以上の利益を受くるを以て敢て危險を冒すの要なきを以てなり。要するにこの金利の低落を以て健全にして一般的のものとなすは速斷にはあらざるか、金融の基礎固くして恐慌に對する準備成れる程ならば鬼に角も何等の基礎の上に立たざる外國よりの借金の過剩が停滯して而も事業に投下せられざるに於ては一朝返却の必要に迫られむか之が返濟に充てらるべき貨物の生產なくして如何にして之に應ぜむとするか、これ國民經濟上の一危險なりとなさゞるを得ずと信ず

小林博士の壇を下るや三井合名會社理事福井菊三郎氏代て米國の實業なる演題の下に一場の講話ありたり大要次の如し

米國は發見以來四百年、西佛蘭人等の殖民失敗の後を承けて最後に現はれたる英人は成功し以て面積三百萬方里總貿易二十億にして年々二三億の輸超過を見る今日の大米國の基をなせり英人は最初農業に望を囑せしも土地の不可なるため工業に着手せしが此發達は本國と經濟上利益の衝突を來し遂に獨立戰爭の導火線となりしも獨立以來實業愈々として進み人間と資本とを要すること愈々急となれり

抑々米國の今日の繁榮を來せしものは保護貿易なると同時に今日米國を苦しめつゝあるも保護貿易なり、保護によりて奬勵せられたる企業は外資を輸入するに當つて公債證書によらずして外人を直接企業に參加せしめ外資と外知とを併せ輸入したるを以て世界に稀なる發達を遂げたり、然るに外人は米人の狂熱する時には事業界より退き資金は米國金融市場を去るを以て玆に